

トマト促成長期どり栽培における品種と播種期

1. 試験のねらい

本県のトマトは2月から出荷する促成作型が中心である。しかし、近年の景気低迷や産地間競争により価格が低迷してきたことから、収益性の高い促成長期どり作型の導入が図られ、栽培技術の確立が求められている。そこで、11月から収穫が始まる促成長期どり栽培法を確立するために、優良品種を選定し、播種適期を明らかにする。

2. 試験方法

(1) 試験1：促成長期どり栽培に適した優良品種の選定

供試品種はハウス桃太郎、桃太郎ファイト、マイロック及び麗容の4品種とした。2001年7月13日に播種し、8月24日にごく割れ期で定植、栽植本数はaあたり185株（180cm×30cmの1条振り分け）とし、3月15日に一斉に摘心し、摘心位置まで収穫した。

(2) 試験2：促成長期どり栽培に適した播種期の検討

播種期について6月下旬、7月中旬、8月上旬の3水準を設けた。供試品種はマイロック、定植期は各区ともごく割れ期として、栽培管理は試験1に準じて行った。

3. 試験結果および考察

(1) 試験1：収穫日はハウス桃太郎が最も早かった。莖径では各品種とも大差なかったが、麗容が他品種よりも常に安定して太い傾向であった（表-1）。

収量及び1果重は麗容が最も優れ、次いでマイロックが優れた。品質はマイロックが空どう果の発生が少なく健全果の発生が多いため最も優れた。糖度は桃太郎ファイトが最も高く、次いでハウス桃太郎が優れた。果実硬度はマイロック、麗容が高かった（表-2）。

(2) 試験2：収穫始期は、6月下旬播種区では9月11日、7月中旬播種区では10月17日、8月上旬播種区では12月16日で、7月中旬以降の播種では収穫時期が大きく遅れる（表-3）。

収量は、播種が早い6月下旬播種区が多かったが、品質は8月下旬播種区が最も優れ、播種期が早い区ほど厳寒期の空どう果の発生が多かった。このことから促成長期どりの播種適期は7月中旬であると考えられる（表-4）。

4. 成果の要約

トマト促成長期どり栽培で、果実肥大が良く空どう果の少ない品種としてはマイロックが有望で、多収品種としては麗容もやや有望であった。また、果実品質が良く、収量を多く確保するためには、7月中旬播種が望ましい。

(担当者 園芸技術部 野菜研究室 羽石重忠)

表－１ 生育

品種名	収穫日(月/日)				収 穫 花房数 (花房)	茎径(mm)			
	1花房	5花房	9花房	13花房		1花房	5花房	9花房	13花房
麗容	10/13	1/ 3	3/13	4/25	14.8	13.8	13.9	14.2	14.1
マイロック	10/13	1/ 3	3/ 9	4/24	15.3	13.9	12.0	14.6	14.8
桃太郎ファイト	10/11	1/ 5	3/13	4/29	15.2	13.5	13.1	14.2	13.7
ハウス桃太郎	10/14	12/27	3/ 2	4/18	15.7	13.9	12.1	14.1	12.8

表－２ 収量および品質

品種名	可販果 収 量 (kg/株)	1果重 (g)	品質割合(%)					糖度 (Brix)	硬度	
			健全	空どう	窓あき	だ円	非販果		果皮	果肉
麗容	10.9	203	60	30	0	7	3	5.3	0.80	0.25
マイロック	10.1	195	79	11	0	7	2	5.3	0.83	0.29
桃太郎ファイト	9.7	188	58	35	2	4	2	5.7	0.71	0.21
ハウス桃太郎	9.7	174	50	41	1	6	2	5.5	0.70	0.19

表－３ 生育

播種期	収穫日(月/日)				収 穫 花房数 (花房)	茎径(mm)			
	1花房	5花房	9花房	13花房		1花房	5花房	9花房	13花房
6月下旬	9/11	10/21	12/28	3/ 7	20.0	13.8	13.0	12.2	14.9
7月中旬	10/17	1/ 3	3/12	4/25	15.7	14.8	13.0	14.4	14.4
8月上旬	12/16	3/ 2	4/14	5/16	13.3	15.2	14.4	14.7	14.7

表－４ 収量および品質

播種期	可販果 収 量 (kg/株)	1果重 (g)	品質割合(%)					糖度 (Brix)	硬度	
			健全	空どう	窓あき	だ円	非販果		果皮	果肉
6月下旬	9.3	158	80	9	0	6	5	5.8	0.82	0.29
7月中旬	8.2	153	84	2	0	9	3	6.1	0.82	0.29
8月上旬	6.1	147	88	1	0	8	3	6.7	0.91	0.33